

現行の学習指導要領における 言葉の特徴やきまりに関する知識・技能についての主な記載（抜粋）

【国語】

小学校学習指導要領（平成20年3月告示）

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年及び第2学年〕

2 内容

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

(1) 「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。

ア 伝統的な言語文化に関する事項

(ア) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。

イ 言葉の特徴やきまりに関する事項

(ア) 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。

(イ) 音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。

(ウ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。

(エ) 長音、拗（よう）音、促音、撥（はつ）音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。

(オ) 句読点の打ち方や、かぎ（「」）の使い方を理解して文章の中で使うこと。

(カ) 文の中における主語と述語との関係に注意すること。

(キ) 敬体で書かれた文章に慣れること。

ウ 文字に関する事項

(ア) 平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。

(イ) 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。

(ウ) 第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

(2) 書写に関する次の事項について指導する。

ア 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。

イ 点画の長短や方向，接し方や交わり方などに注意して，筆順に従って文字を正しく書くこと。

[第3学年及び第4学年]

2 内容

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]

(1) 「A 話すこと・聞くこと」，「B 書くこと」及び「C 読むこと」の指導を通して，次の事項について指導する。

ア 伝統的な言語文化に関する事項

(ア) 易しい文語調の短歌や俳句について，情景を思い浮かべたり，リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。

(イ) 長い間使われてきたことわざや慣用句，故事成語などの意味を知り，使うこと。

イ 言葉の特徴やきまりに関する事項

(ア) 言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。

(イ) 漢字と仮名を用いた表記などに関心をもつこと。

(ウ) 送り仮名に注意して書き，また，活用についての意識をもつこと。

(エ) 句読点を適切に打ち，また，段落の始め，会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。

(オ) 表現したり理解したりするために必要な語句を増し，また，語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。

(カ) 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について，辞書を利用して調べる方法を理解し，調べる習慣を付けること。

(キ) 修飾と被修飾との関係など，文の構成について初歩的な理解をもつこと。

(ク) 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し，使うこと。

ウ 文字に関する事項

(ア) 第3学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，また，ローマ字で書くこと。

(イ) 第3学年及び第4学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。

(ウ) 漢字のへん，つくりなどの構成についての知識をもつこと。

(2) 書写に関する次の事項について指導する。

ア 文字の組立て方を理解し，形を整えて書くこと。

イ 漢字や仮名の大きさ，配列に注意して書くこと。

ウ 点画の種類を理解するとともに，毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。

〔第5学年及び第6学年〕

2 内容

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

(1) 「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。

ア 伝統的な言語文化に関する事項

(ア) 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。

(イ) 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。

イ 言葉の特徴やきまりに関する事項

(ア) 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。

(イ) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。

(ウ) 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。

(エ) 語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。

(オ) 文章の中での語句と語句との関係を理解すること。

(カ) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。

(キ) 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。

(ク) 日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。

(ケ) 比喩（ゆ）や反復などの表現の工夫に気付くこと。

ウ 文字に関する事項

(ア) 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

(イ) 仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。

(2) 書写に関する次の事項について指導する。

ア 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。

イ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。

ウ 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。

中学校学習指導要領（平成20年3月告示）

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年〕

2 内容

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

(1) 「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。

ア 伝統的な言語文化に関する事項

(ア) 文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。

(イ) 古典には様々な種類の作品があることを知ること。

イ 言葉の特徴やきまりに関する事項

(ア) 音声の働きや仕組みについて関心を持ち、理解を深めること。

(イ) 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨くこと。

(ウ) 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙（い）について関心をもつこと。

(エ) 単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意すること。

(オ) 比喩（ゆ）や反復などの表現の技法について理解すること。

ウ 漢字に関する事項

(ア) 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むこと。

(イ) 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。

(2) 書写に関する次の事項について指導する。

ア 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷（かい）書で書くこと。

イ 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。

〔第2学年〕

2 内容

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

(1) 「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。

ア 伝統的な言語文化に関する事項

(ア) 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。

(イ) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。

イ 言葉の特徴やきまりに関する事項

(ア) 話し言葉と書き言葉との違い、共通語と方言の果たす役割、敬語の働きなどについて理解すること。

(イ) 抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにすること。

(ウ) 文の中の文の成分の順序や照応、文の構成などについて考えること。

(エ) 単語の活用について理解し、助詞や助動詞などの働きに注意すること。

(オ) 相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解すること。

ウ 漢字に関する事項

(ア) 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むこと。

(イ) 学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。

(2) 書写に関する次の事項について指導する。

ア 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。

イ 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。

[第3学年]

2 内容

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]

(1) 「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。

ア 伝統的な言語文化に関する事項

(ア) 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。

(イ) 古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと。

イ 言葉の特徴やきまりに関する事項

(ア) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを理解するとともに、敬語を社会生活の中で適切に使うこと。

(イ) 慣用句・四字熟語などに関する知識を広げ、和語・漢語・外来語などの使い分けに注意し、語感を磨き語彙を豊かにすること。

ウ 漢字に関する事項

(ア) 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むこと。

(イ) 学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れること。

(2) 書写に関する次の事項について指導する。

ア 身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くこと。

高等学校学習指導要領（平成21年3月告示）

第1 国語総合

2 内容

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

(1) 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。

ア 伝統的な言語文化に関する事項

(ア) 言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げること。

(イ) 文語のきまり、訓読のきまりなどを理解すること。

イ 言葉の特徴やきまりに関する事項

(ア) 国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解すること。

(イ) 文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。

ウ 漢字に関する事項

(ア) 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるようになること。

【外国語】

中学校学習指導要領（平成20年3月告示）

第2 各言語の目標及び内容等

英語

2 内容

(3) 言語材料

(1) の言語活動は、以下に示す言語材料の中から、1の目標を達成するのにふさわしいものを適宜用いて行わせる。

ア 音声

- (ア) 現代の標準的な発音
- (イ) 語と語の連結による音変化
- (ウ) 語、句、文における基本的な強勢
- (エ) 文における基本的なイントネーション
- (オ) 文における基本的な区切り

イ 文字及び符号

- (ア) アルファベットの活字体の大文字及び小文字
- (イ) 終止符、疑問符、コンマ、引用符、感嘆符など基本的な符号

ウ 語、連語及び慣用表現

- (ア) 1,200語程度の語
- (イ) in front of, a lot of, get up, look for などの連語
- (ウ) excuse me, I see, I'm sorry, thank you, you're welcome, for example などの慣用表現

エ 文法事項

(ア) 文

- a 単文、重文及び複文
- b 肯定及び否定の平叙文
- c 肯定及び否定の命令文
- d 疑問文のうち、動詞で始まるもの、助動詞 (can, do, may など) で始まるもの、or を含むもの及び疑問詞 (how, what, when, where, which, who, whose, why) で始まるもの

(イ) 文構造

- a [主語＋動詞]
- b [主語＋動詞＋補語]のうち、
 - (a) 主語＋be 動詞＋

{	名詞	}
{	代名詞	}
{	形容詞	}

(b) 主語+be 動詞以外の動詞+ $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{形容詞} \end{array} \right\}$

c [主語+動詞+目的語] のうち、

(a) 主語+動詞+ $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{代名詞} \\ \text{動名詞} \\ \text{to 不定詞} \\ \text{how (など) to 不定詞} \\ \text{that で始まる節} \end{array} \right\}$

(b) 主語+動詞+what などで始まる節

d [主語+動詞+間接目的語+直接目的語] のうち、

(a) 主語+動詞+間接目的語+ $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{代名詞} \end{array} \right\}$

(b) 主語+動詞+間接目的語+how (など) to 不定詞

e [主語+動詞+目的語+補語] のうち、

(a) 主語+動詞+目的語+ $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{形容詞} \end{array} \right\}$

f その他

(a) There+be 動詞+～

(b) It+be 動詞+～ (+for～) +to 不定詞

(c) 主語+tell, want など+目的語+to 不定詞

(ウ) 代名詞

a 人称, 指示, 疑問, 数量を表すもの

b 関係代名詞のうち, 主格の that, which, who 及び目的格の that, which の制限的用法

(エ) 動詞の時制など

現在形, 過去形, 現在進行形, 過去進行形, 現在完了形及び助動詞などを用いた未来表現

(オ) 形容詞及び副詞の比較変化

(カ) to 不定詞

(キ) 動名詞

(ク) 現在分詞及び過去分詞の形容詞としての用法

(ケ) 受け身

(4) 言語材料の取扱い

ア 発音と綴 (つづ) りとを関連付けて指導すること。

イ 文法については, コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ, 言語活動

と効果的に関連付けて指導すること。

ウ (3) のエの文法事項の取扱いについては、用語や用法の区別などの指導が中心とならないよう配慮し、実際に活用できるように指導すること。また、語順や修飾関係などにおける日本語との違いに留意して指導すること。

エ 英語の特質を理解させるために、関連のある文法事項はまとまりをもって整理するなど、効果的な指導ができるよう工夫すること。

高等学校学習指導要領（平成21年3月告示）

第3款 英語に関する各科目に共通する内容等

2 英語に関する各科目の2の(1)に示す言語活動を行うに当たっては、中学校学習指導要領第2章第9節第2の2の(3)及び次に示す言語材料の中から、それぞれの科目の目標を達成するのにふさわしいものを適宜用いて行わせる。その際、「コミュニケーション英語Ⅰ」においては、言語活動と効果的に関連付けながら、ウに掲げるすべての事項を適切に取り扱うものとする。

ア 語、連語及び慣用表現

(ア) 語

- a 「コミュニケーション英語Ⅰ」にあつては、中学校で学習した語に400語程度の新語を加えた語
- b 「コミュニケーション英語Ⅱ」にあつては、aに示す語に700語程度の新語を加えた語
- c 「コミュニケーション英語Ⅲ」にあつては、bに示す語に700語程度の新語を加えた語
- d 「コミュニケーション英語基礎」、「英語表現Ⅰ」、「英語表現Ⅱ」及び「英語会話」にあつては、生徒の学習負担を踏まえた適切な語

(イ) 連語及び慣用表現のうち、運用度の高いもの

イ 文構造のうち、運用度の高いもの

ウ 文法事項

(ア) 不定詞の用法

(イ) 関係代名詞の用法

(ロ) 関係副詞の用法

(エ) 助動詞の用法

(オ) 代名詞のうち、itが名詞用法の句及び節を指すもの

(カ) 動詞の時制など

(キ) 仮定法

(ク) 分詞構文

3 2に示す言語材料を用いるに当たっては、次の事項に配慮するものとする。

ア 現代の標準的な英語によること。ただし、様々な英語が国際的に広くコミュニケーションの手段として使われている実態にも配慮すること。

イ 文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けて指導すること。

ウ コミュニケーションを行うために必要となる語句や文構造、文法事項などの取扱いについては、用語や用法の区別などの指導が中心とならないよう配慮し、実際に活用できるよう指導すること。